

日本語教育の諸問題

類義語分析 指向動詞「めざす」と「ねらう」

加藤 理恵
鹿児島純心女子大学

1. はじめに

日本語教育における語彙の指導では「類義語の意味の微妙な違い」を知ることが重要である。さらに石田（2000：123）では、次のような問題があることも述べられている。

(+)のニュアンスまたは(-)のニュアンスは辞書を見ただけでは分からない点なので、その度に説明しておかないと、文脈の真の意味がつかめないことがある。また、文章を書くときにもこの差を知っていないと、思っていることとは逆の意味を伝えてしまう恐れがある。語彙の使用上大事な点であるにも関わらず意外に軽視されている。

「めざす」と「ねらう」は、対象に目標となる事柄が表されている場合、類義語の関係にある。

- (1) 貿易再開を{ねらって・めざして}準備中の生産者側と打合せをすすめていた。
- (2) 戦時経済の効率推進を{ねらって・めざして}第二次世界大戦中の1942年に制定された現行の日銀法では、旧日銀条例に比べて政府の統制権限が強い。

さらに、「ねらう」は次の例では(-)のニュアンス、良からぬ行為であると解釈される。

- (3) しつこく生き残りを図る大統領が、クルド人の内紛につけこんで勢力拡大を{ねらっている・めざしている}。

「めざす」と「ねらう」は類義語の関係にあり、同時に文脈によっては(+)(-)のニュアンスが関わる。

2. 先行研究の記述

2.1 国語辞典の記述

『日本国語大辞典』等の辞書の記述は、井上（1983）でも指摘されているように、「ねらう」の記述は詳しいが、「めざす」を引くと「めがける」「ねらう」、「ねらう」を引けば、「めざす」がでてくる。辞書の記述は「定義の堂堂巡り」（国広（1997：165））になっている。

2.2 英和・西和辞典の記述

研究社『新英和大辞典』, 小学館『プログレッシブ英和中辞典』の aim, 白水社『現代スペイン語辞典(改訂版)』の pretender の訳語には、「めざす」「ねらう」が併記されている。

2.3 井上(1983)

井上(1983)では、「ねらう」と「めざす」の違いを<現在達成可能であると意識する対象>と<主体から遠距離にある或いは現在では到達不可能であると意識する対象>に求めている。個別の事例としては、<悪事><善事>による違いもあげられている。

以下の例は、いずれも「ねらう」では不自然である。「欧米型のクラブチーム」「ラグビー」は「平和」のように、<善事>とは言いきれない。

(4) 勝たなくてはというプレッシャーがなかったから、めざすラグビーができた。

(5) 同協会はスポーツ事業にも取り組み、欧米型のクラブチームをめざす。

また、達成可能かどうかでも説明しがたい。

(6) 看護師をめざすにも、最近は大学に進学する傾向がある。

(7) 大穴をねらう

3. 物理的動作としての「ねらう」「めざす」

3.1 「ねらう」

「ねらう」の辞書の記述では三義に分けられているものが多い。動作の記述に「構える」「照準を定める」「機会を待つ」「様子を伺う」がある。その動作の目的は、「弓や鉄砲などを命中させる」「殺す」「手に入れる」「遂行する」とされている。

「ねらう」の基本的な用法は次のような例だと考える。

(8) ミミズクは子供の眼をねらった。

(9) 木の上の鳥をねらう。

「ねらう」は<最適な時を待つ>面と<注意深く観察する>面に分けられる。時間的には同時で、以下の例ではそのどちらもが同等に感じられる。

(10) 二匹の獣はお互いの弱点をねらっていた。

例によってはどちらかに注意が偏っており、それがヲ格の表現から明らかになることもある。

(11) 留守をねらう。

(12) 門司で寄港した時間をねらって、多数の新聞記者が船へやってきた。

武器が示されていることから明らかになることもある。

(13) 彼は銃で獲物をねらっている。

動作の目的に注意が偏っている場合もある。＜的に当てる＞目的は、「攻撃する」、「危害を加える」、「殺す」ことである。

(14) ミミズクが目をねらった。

(15) われわれの命をねらうおそろしい敵が近くにいる。

＜的に当てる＞目的は、＜目標物を獲得する＞ことである。

(16) ライオンがうさぎをねらっている。

(17) この仏の骨董品は、前から親戚中がねらってたんだ。

いずれもその裏では意味が全て生きている。一つの現象素（国広（1997：176））があると考えられる。

3.2 「めざす」の目的：到着する目的地

「到着する目的地」がヲ格で表されている。

(18) 山頂をめざす。海をめざす。

(19) めざす本屋の主人が留守だったりする場合があった。

3.3 まとめ

「ねらう」：＜人・動物＞が、＜選択した目標物に何かを命中させることを目的とし＞、＜注意深く観察する＞＜最適な時を待つ＞それがよくないこととして捉えられる傾向がある。

「めざす」：＜人＞が＜目的地を向く＞＜直線的に動く＞¹

4. 抽象的な行為としての「ねらう」と「めざす」

「ねらう」と「めざす」の違いは、他者の存在が前提となるかどうか、そしてその行為をしようとする意志に疑問の余地があるかどうかに関わる。

4.1 「手に入れようとする目標」が示されている場合

(20) 地価暴落による利益をねらって、政党首脳や役人に多額の賄賂が流れたと野党に指摘され、首相が告発される事態にまで発展した。

(21) 利益をめざす

(22) 身振り手振りじゃべったあと、あきらかに村の大人たちのすべての胸をゆさぶる効果をねらっている調子でいった。

¹ 国広（1997：197）の「さす」を参照。

(23) 胸をゆさぶる効果をめざす。

4.2 「自らがたどりつく目標」が示されている場合

(24) 政界再編成の途中にあつて、第三極を{めざす・ねらう}新党の登場も、政治を動かした一因となっている。

(25) 新進党は「小さい政府」を{めざそう・ねらおう}としました。

(26) 公的支援は豊かな国を{めざす・ねらう}災害大国の知恵だ。

(27) スタメン開幕を目差し、チャンスがあれば日本代表も{ねらいたい・めざしたい}。

4.3 目的のためには手段を選ばない

(28) その巨富をもって、その国を{ねらつて・めざして}大統領になるということだ。

(29) そもそも九十九里浜は、「日米戦未来記」のむかしから上陸を{ねらっている・めざしている}場所ではないか。

4.4 行為に評価が関わる例

(30) すきあらば、足もとをすくおうとねらっていた。

(31) 価格吊り上げをねらう悪質な大量買占めと判断して中央官庁にも報告した。

(32) 虎視眈々と京都回復の機をねらっております。

(33) 大戦中の安易な金もうけの味を忘れかね、なにかうまい商売はないかとねらっていた連中にとって、絶好の目標だった。

5. まとめ

「ねらう」と「めざす」の類義語の分析をした。各々の動詞の多義構造、「めがける」等、他の類義語を含めた語彙の体系の明示は今後の課題とする。

参考文献

石田敏子(2000)『改定新版日本語教授法』大修館書店

井上次夫(1983)「指向動詞の意味分析　めがける・ねらう・めざす」奈良教育大学国文学会編『奈良教育大学国文』6, pp.38-49, 奈良教育大学国文学会

国広哲弥(1997)『理想の国語辞典』小学館